

いしかわ里山塾(穴水班)への参画

団体名●いしかわ里山塾(穴水班)／代表者名●池田幸應(人間科学部教授)

はじめに

2019年度、世界農業遺産活用実行委員会から本学地域連携センターへの委託事業として「いしかわ里山塾」が昨年度に引き続き実施された。穴水町において、本学人間科学部スポーツ学科池田ゼミナールは継続的に野外教育推進・地域貢献活動を行っており、また経済学部経営学科川澄ゼミナール所属の当該学生も本事業での穴水班として昨年度に参画している。今回、穴水町での里山里海での人々の暮らしについて地域資源調査・視察を行い、実際に現地での農林漁業体験活動を通して穴水町立向洋小学校でのふるさと教育と連動させ、地域資源の再発見、ふるさと意識向上につなげることを目的とした。

活動内容

池田ゼミナール所属学生(20名)及び川澄ゼミナール所属学生(1名)が以下の現地での体験型プログラムに参加し、地域資源の再評価や地域住民の意識について理解を深めた[「長谷部まつり」(7/14)、「ボラ待ち櫓」修復活動(8/4)、「沖波大漁祭り」(8/14・15)、星稜中学校3年生「体験学習」(10/7・8・9)、住吉公民館「海っ子山っ子魚釣り大会」(10/20)、穴水町向洋小学校「たたら唄伝承」(10/21)、「かぶら寿司」下漬け(12/6)、「かぶら寿司」本漬け(12/9)、かきまつりイベント高岡(1/11)、かきまつりイベント金沢(1/12)、「雪中ジャンボかきまつり」本番(2/8・9)、その他]。また、向洋小学校において推進されている「ふるさと学習」報告会(12/19)に参加し、5・6年生児童ら16名と共に地域資源の魅力について再認識した。加えて、学生による向洋小学校における出前授業(2/3)では、学生による一方向の講義形式ではなく、常に児童と同じ目線に立ち、アイスブレイク、大学生の穴水町での調査・視察及び体験活動から学んだ内容が報告され、世界農業遺産、SDGS関連のクイズを盛り込んで理解が深められた。

成果、結果の考察

様々な活動を通して、学生たちが穴水町の自然、歴史・文化等の地域資源に気づき、地域住民との交流を通して地域課題についても理解を深めることができた。特に小学生との共同活動やふるさと学習報告会、出前授業により、地域貢献のあり方についても深く考える機会を得たものと考えられる。

穴水町での一番の課題は人口減少及び過疎高齢化であり、まず町民、特に子どもたちへのふるさと教育推進による地域への愛着度アップを図り、地域の魅力情報発信が関係人口増加へとつながるものと考えられる。そのためにも、学生の現地活動を継続し、地域資源に触れる体験活動も併用した地域の魅力について、SNS等でのPRを行政や個人だけではなく、町全体の人、団体、組織から複合的に配信し、より多くの人々に穴水町について周知することが重要である。

今後の課題、展望

活動経験を活かし、地域行事や行政施策等と連動化し、協働での里山里海体験活動を推進しながら穴水町の地域の魅力について配信して行きたい。



写真：学生による出前授業でのグループワークの様子